

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



特別支援学級担任研修会



テーマ「子どもが主体的に取り組む授業づくり」 ～実践例の紹介～

○診断名や検査の数値にこだわらず、目の前の子どもをじっくり観察して実態把握に努めている。そして、子どもや保護者の願いも取り入れながら授業のねらいを設定している。

○子どもが楽しみながら分かる工夫をするとともに、ごっこではなく本物の活動にこだわっている。

○栽培活動は長い単元なので、サツマイモを植えたときは、図書司書にお願いしてサツマイモに関する本を紹介してもらったり、観察日記を書いたりしてモチベーションを高めた。

○パソコンやタブレット端末を活用する一方、これまでの手作り教材も活用している。

○時計の読み方の学習方法

・10時とは、「2時間目の授業の時間である」というように日常生活と結び付けて教えている。

・長針と短針に別々の色を付けた時計を読む→長針だけにシールを貼った時計を読む→黒い針でも読めるようにするなど、スモールステップで学習した結果、読めるようになった。

・算数の時計の勉強と生活単元学習で動物園に行ったときの学習とを結び付けた。



○筆圧が弱い子どものために、粘土、柔らかいボール、ローラを利用して指の力を高めている、カーボン紙で好きなキャラクターを写す課題に取り組んでいる。(大きめのクリップを鉛筆に取り付けると書きやすくなるという裏技の紹介もあった。)

○読むのが楽しくなり、廊下に掲示しているものも読もうとするようになった。

○子ども同士で操作できる活動や授業の後半に楽しいコーナーを取り入れている。

○学習意欲が高まるように、ゲーム的要素や競争的要素も取り入れている。

○漢字検定を受けることが子どもの学習意欲を高めた。



→自分が努力すれば何かが得られる体験が自信になる。

○「こんなことはできないだろう」と思われながら中学校に上がってきた生徒が多いので、自己肯定感を高める必要性を感じている。

→自分の役割を果たせる活動を通して、子どもが認められる機会を増やし、存在価値を高めることが大切である。

○英語は生徒にとって覚える情報量が多すぎて習得が難しい。そのため、アイドルグループ「嵐」の曲を聴いて英単語を覚える、外国映画を見て感覚的に発音を覚える等、生徒の興味・関心のある教材を用意し、生徒の意欲を高めた。

〈授業の質を上げる6つのポイント〉

- 1 子どもが本時で何をやるのか見通しのもてる授業
- 2 子どもが得意なことや好きなことを通して活躍できる授業
- 3 子どもが分かる・できる授業
- 4 子どもが考えを伝え合ったり、教え合ったりする授業
- 5 子どもが本時で分かったことや身に付けたことを言える授業
- 6 子どもが学習の必要性を感じることでできる授業



特別支援学級で学ぶ子どもたちの実態は多様であり、授業に関する評価はとても厳しい。研究授業であっても、おもしろくなければつまらない表情をしたり、教室から出て行ったりすることもある。授業の充実度は子どもの表情に、学習の成果は子どもの言動に表れる。子どもたちの目が輝き、思考スイッチがオンになるような授業づくりを目指したい。